



紙で考えるサッカー 岡田武史

学生の頃から環境問題を考えていて、監督の傍ら環境サミットに参加したこともある。昨年、現場を離れたこともあり、日本サッカー協会に「環境プロジェクト」を立ち上げ、サッカーが環境にアピールするアイデアを考えている。ボール一個でできるサッカーは、環境負荷の小さい娯楽だと思ふ。「1リーグ百年構想」で地域にスポーツ文化が根付き、休日に家族でスポーツをするようになれば「モノを消費しないライフスタイル」に変わっていくのではないかと、これはまだ「夢」の段階だが。サポーターの皆が、日常生活で環境問題に参加する気持ちを持ってくれれば、と思っている。そんなわけで、最近は講演などの依頼も、環境関係のほうが多いくらいだが、さて、どんなことを話そうかと考えるとき、私はいつも持ち歩いているA4のリポート用紙に、頭に浮かんだ言葉を片端から書きつけていく。筆記具はボールペンがいい。「これは大切だ」と思ってグッと書いた文字は自然に太くなるからだ。それにマルをつけたり線で結んだりして、筋立てを考えていく。忙しいときは外出先や電車の中でもできる。頭の中の考えを一枚の紙の中にまとめていけば、全体がひとめで見える。実はこれは、監督時代にしていたのと同じ作業だ。練習中でも試合中でも、選手の動きを見ながらいつもメモ用紙に思いついたことを書きつけていた。ハーフタイムに選手に何を言うか、紙の上にボールペンで字を書きながら整理していく。練習のときは事前にトレーニングスケジュールを書いたグラウンドに出る。気になることを随時メモしながら臨機応変にメニューを考え、変更していく。現場では、監督は「紙で考える」と言えなくもない。

選手にはメモを取らせない。大脳辺縁系で判断してプレーせねばならない選手は、書いて覚えるよりもあまり役に立たない。しかし監督は紙に字を書いて考えるのが仕事だ。シーズン最初に、今年はどう戦うかの方針と年間計画を考えてA4の紙に書き連ねる。さらに試合ごとに、気づいたこと、反省点を書き、その後二〜三週間のスケジュールをたてる。考えた過程のメモは捨てる。いったん決断したあとは、雑念は捨てなくてはいけない。反省と次の方針をまとめたものは、綴

岡田武史(おかだ・たけし)○1956年大阪府生まれ。早稲田大学政治経済学部卒。80年古河電工入社、85年まで日本代表。90年現役引退。94年から日本代表コーチ。97年から日本代表監督として、98年フランスW杯の予選途中から本大会までの指揮を執る。99年よりJ2・コンサドーレ札幌監督、チームはJ1に昇格。2003年より横浜F・マリノス監督、2年連続年間優勝などの成績を残す。06年退任。現在、日本サッカー協会特任理事。



じて保存していく。紙を綴じたものは、何かの折にすぐにめくって見返せる。全体が把握できるのが、紙の良さだ。一年間で分厚いファイルが二冊できる。これは保存する。ただし、後になって見ることにはあまりない。たまに現状に行き詰ったときに、あのときはどうしたかとファイルをめくり返して「おお、これだ!」とひらめいても、いい結果になることはなかった。現場から逃げて過去に助けを求めても失敗するものだ。まあ、いずれ孫にでも見せながら「おじいちゃん、こんな仕事をしていたんだよ」と思い出話をしようか。

今も同じA4のリポート用紙を使っている。変わったのは四色ボールペンで書くようになったことくらいか。文章を書く機会も多くなったが、私はパソコン画面上で校正するというのができない。スクロールしないと全体が見えないからだ。紙に印刷すると全体が俯瞰でき、考えがまとまるのだ。今後も、サッカーでも環境問題でも、考えるときは紙にお世話になる。一枚の紙のありがたさを思い、いざれ恩返ししていきたいと考えながら、ボールペンを走らせている。

PAPER Q & A Vol.20

Q. 段ボールは、どうして丈夫なんですか?

A. 特殊な構造によって強度が保たれているからです。

引越しや宅配便など、軽くて丈夫な段ボールは重宝しますね。

でも、紙でできた段ボールがどうしてこんなに丈夫なのでしょう? その訳は段ボールの構造にあります。

通常段ボールは、3枚のボール紙からできています。中しんと呼ばれる波形のボール紙をライナと呼ばれるボール紙でサンドイッチしています。そしてその断面を見ると、三角形を単位としていることが分かります。これはトラス構造と呼ばれ、橋梁やタワーなどにも応用されています。ライナと中しんの組み合わせ、これが段ボールの強さの秘密です。

ボール紙(ライナ)
段ボールの表や裏に使われる原紙のことです。英語ではliner、すなわち裏打ちするという意味から来ています。

波形ボール紙(中しん)
三層からなる段ボールの中にサンドイッチされた波形の原紙のこと。美しいウェーブが段ボールの強さの源です。



ちなみに使用済みの段ボールは殆どが回収され、新しい段ボールに生まれ変わります。段ボールは地球に優しいリサイクルの優等生でもあるのです。

◆次回は1月3・10日号、畑村洋太郎さんです。